

# 令和5年度第1回沿岸広域振興圏地域連携懇談会 開催概要

## 1 日時

令和5年7月24日(月) 14時00分～16時00分

## 2 場所

大槌町中央公民館 大会議室

## 3 出席者

### (1) 構成員（敬称略、五十音順）

内金崎加代子構成員、金澤辰則構成員、河野通洋構成員、佐々木淳子構成員、佐々木康行構成員、佐藤智子構成員、椎屋百代構成員、竹野牧子構成員、山本泰子構成員

### (2) 沿岸広域振興局

工藤局長、松本副局長兼復興防災部副部長、植野副局長（宮古市駐在）、高橋副局長（大船渡市駐在）、白旗技術参事兼土木部長、田村保健福祉環境部長兼岩手県釜石保健所次長、眞島農林部長、筒井水産部長、菊池経営企画部産業振興室長、（事務局）高橋経営企画部企画推進課長、鈴木経営企画部企画推進課特命課長（特定課題）

沿岸広域振興局宮古地区及び大船渡地区の各センター所長等がオンライン又は大会議室に出席

### (3) オブザーバー出席

山田町、大槌町

### (4) 傍聴者

なし

## 4 概要

### (1) 開会

### (2) 挨拶

#### 【工藤沿岸広域振興局長】

皆さん、こんにちは。

今年の1月から岩手県沿岸広域振興局長をしております、工藤と申します。今日もどうぞよろしく申し上げます。

令和5年度第1回沿岸広域振興圏地域連携懇談会の開会に当たりまして、挨拶を申し上げます。

まず、本日は、構成員の皆様には、御多用のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素から県及び当振興局の施策の推進に御協力いただいております、深く感謝を申し上げます。

この懇談会は、沿岸広域振興圏の総合的な計画の策定及び推進に関する重要な事項について懇談いただき、当圏域の振興を図るという目的で設置しているものでございます。

皆様には、この度の構成員の改選に当たりまして、御就任を御快諾いただき、重ねて御礼を申し上げますとともに、当振興局の施策の推進に向けて、お力添えを賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。

さて、県では、今年度からスタートしました「いわて県民計画（2019～2028）」の第2期アクションプランにおいて、人口減少対策を最優先に取り組みべきものと位置付けるとともに、地域が直面する、医療福祉の充実や、地域交通の維持・確保、主要魚種の不漁対策をはじめとする産業振興、そして交流人口の拡大などの課題解決に取り組んでいくということとしております。

近年、新型コロナウイルス感染症の影響によって、多くの事業が中止・縮小を余儀なくされてきましたけれども、今年の5月からは、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して、各種のイベントの再開やインバウンド需要の回復がみられますほか、先月は、天皇・皇后両陛下を当沿岸圏域にお迎えして、「第73回全国植樹祭」が開催され、東日本大震災からの復興の姿と全国内外からの御支援に対する感謝の意、そして、岩手の豊かな森林や、本県の観光、物産など様々な魅力を県内外に発信できたと考えております。

県あるいは振興局としましては、このような機運を生かして、市町村はもとより民間事業者、関係団体など、地域の様々な方々との連携・協働のもと、地域課題の解決に取り組んでいきたいと考えております。

本日の懇談会におきましては、昨年度の振興局の活動実績の評価案や今年度の取組状況、そして今年度の具体的な取組について御説明し、御意見をいただきたいと考えておりますので、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

### (3) 出席者紹介

【松本副局長兼復興防災部副部長】

(構成員、広域振興局出席者、オブザーバー出席者を、名簿順に、名前及び所属等を読み上げて紹介)

### (4) 報告

- ア いわて県民計画（2019～2028） 第2期アクションプランについて  
事務局から資料1-1及び資料1-2に沿って説明。

【内金崎加代子構成員】

i-サポの結婚支援の件なのですが、私の周りでi-サポに登録してカップルにな

った方がいて、素晴らしいなと思っていて、独身の方に i-サポいいよと勧めてはみていた。大槌町は、登録料1万円を町が負担するという素晴らしい取組をやっていて、いいなと思っていた。

たまたま i-サポのホームページを見ようと思ったら、ロコミというのがあり、見てみた方がよいかもしれないなと思いました。

せっかくよい取組なのに、安い金額で、ほかはもっと何十万かかる登録料でやらなければいけないことなので、利用者の声も踏まえてもう少し対応を考えた方がよいかもしれないなと思いました。

40代後半、50代の独身の男性が周りに多くて、その人たちがハードル低く、こういうところで知り合える何かあればなとも思います。きっかけが共通の趣味から広がるみたいなイベントや、好きなアニメなど、共通する趣味から気軽に入っていけるような取組だとか、そういうイベントを考えてみてもよいのではないかなと思いました。

**【田村保健福祉環境部長兼岩手県釜石保健所次長】**

貴重な御意見ありがとうございました。

i-サポの対応につきましては、我々も確認しながら連携をとってよい方向に進めていきたいと思っております。

また、i-サポだけの事業だとなかなか機会が少ないですので、我々としましても、振興局の予算も使いながら、出会いの場を提供し、釜石だけではなくて宮古や大船渡でも積極的に進めていきたいと考えております。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ありがとうございました。

イ 令和4年度第2回沿岸広域振興圏地域連携懇談会における御意見に係る対応状況について

事務局から資料2に沿って説明。

**【佐藤智子構成員】**

私も男女共同参画サポーター養成講座を受講したときに、何をすればよいのか分からなかったというところで、このような地域で活躍できないかなということを御意見させていただいた。

ただ、傾聴ボランティアという活動をしていますので、その部分で活動できていればよいかなと思ったことをお話ししたような気がしております。

最近、大船渡市の方でも、男女共同参画の方でいろいろと計画をしてくださっているようでして、いろいろな事業を進めている様子がみえましたので、取組に前向きになっているなということを感じております。

パートナーシップ制度に関しては、私も勉強中だったのですけれども、このように認

識がきちんと広がっていくようにしていただければよいなと思っております。  
ありがとうございました。

【松本副局長兼復興防災部副部長】

ありがとうございました。

(5) 懇談

- ア 令和4年度沿岸広域振興圏施策評価について  
事務局から資料3に沿って説明。

【河野通洋構成員】

今の御報告の内容でいうと、評価内容、定量の分析の方法、また、分析も自己評価というふうなことで、自分たちで作って、自分たちで評価して、自分たちで採点をするというようなやり方が本当に成果につながるかどうかというようなことです。我々企業経営をしていく上で、定量の目標は、結構、達成が多いのです。達成が多いのですけれども、それは何と比較して成果が上がったのか、他県と比較してとか、そういう比較対象のものが無い中で、達成というように言われても、大丈夫なのかなど。このまま進んでいって達成しましたといたら変わらないですよ、対策を打つ必要がないということになりますから。

本当にこれでよいのかどうかという根本的な話ですが、これいかがでしょうか。

【高橋企画推進課長】

ありがとうございます。

振興局のプランの評価につきましては、自分たちで数値目標を立てておりますけれども、地域振興プランの中でも立てている目標に沿ってやっているものでございまして、今お話があったような自分で目標を達成すれば進まないのではないかというお話でございますが、今回の3年度、4年度については、これを生かしながら、第2期のプランの方に、それではどんな取組がよいか、というところで反映させているところがございます。今年度の取組の方にも、今、達成しましたと御報告した項目だけではなくて、それをさらどう取り組んでいくかという部分で反映させていっているものでございますので、御指摘があったような、達成されたらもうそのままではないかということではなくて、さらにその次の展開を進めているようなものでございます。

評価の仕方につきましては、この地域振興プランの評価は全県的なやり方で統一しているものでございますので、そのような進め方をさせていただいているものでございます。

【河野通洋構成員】

それでは是非、今後の評価基準を、自己評価の対象となるものを、全国平均なのか、

東北六県平均に対してどれくらいの水準にあるかということ、明確にさせていただきますと分かりやすいと思います。

**【高橋企画推進課長】**

目標の考え方なのですけれども、地域振興プランの中にある目標につきましては、それぞれの目標で、過去の伸び率とか社会状況とか世界情勢も含めますけれども、環境に応じて目標を立てているところがございます、その部分につきましては公表させていただいているところがございます。

**【工藤沿岸広域振興局長】**

補足させていただくと、河野構成員さんがおっしゃるように、どのくらいのレベルを目指しているのかというのが分からないと、それが果たして達成してよいのかどうかというところがあると思いますし、それについては、県としてもそういう認識でありまして、最初、挨拶のところでお話しましたがけれども、県の計画とか、その具体的な実施計画であるアクションプランなどに目標設定をしているところとして、分野分野で、ある項目については東北トップを目指そうとか、そういったことで東北一番を目指すためにこの数字を目指してやっていきますと。

あと、各年度、例えば、令和4年度にその数字を達成するためには令和3年度はどのくらいまで目指そうとか、そういったところがありまして、それは項目、目標一つひとつにおいて違いますので、今日の説明はいきなり数字がどうで、でそれが達成されましたとかその辺からの説明でありましたので、それは一体よいことなのかとかというふうな疑問が生まれて当然だと思います。

順を追ってお話すると、例えば、この目標数値については、全国のトップの方を目指すためにこうやっていて、それが達成しましたとか達成しませんでしたとかというふうになりますので、それについては時間の関係で全部説明する時間がないというところでありました。いずれおっしゃるとおりでありますし、その辺については、分かりやすいように公表等を工夫させていただきたい、あるいは検討させていただきたいというところがございます。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

それではほかに御意見、御質問ございませんでしょうか。

**【竹野牧子構成員】**

ただいまの河野構成員さんの意見に関して話をさせていただくと、評価の指標のレベルをどのように設定するかというのは、単に平均値を用いることができないものもあり、とても難しいと思います。

例えば、復興の分野で考えると、語り部の人数や復興関連イベントに参加した人数などは、地域固有のものであって全国平均は出せません。

また、私は農業をしていますので農業分野で考えますと、特に宮古市や中山間地域では、高齢化と後継者不足が深刻な問題で、仮に子どもさんがいたとしてもお給料の高い仕事に就職してしまいます。

そんな中で、岩手県の内陸部と同等のレベルで指標を設定されても対応が難しい場面もありますので、特に何かを平均して何かを評価するというのはかなり難しいなと感じました。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ありがとうございました。

ほかの方、いかがでしょうか。

**【佐々木康行構成員】**

送っていただきました資料を見させていただいたときに思った点がありましたので、お話をさせていただきたいと思います。

37 ページに、「安心して健やかに暮らせる地域医療の確保と健康づくりを進めます」というところがございます。その中で、「現状と課題」の中で「医療従事者数が全国平均や県平均を大きく下回るなど人材不足が顕著となっている」という部分で、今後、「人材育成」であったり、あるいは「ネットワーク」や「連携を強化する」など書かれてはいるのですけれども、実際いろいろと現場の声を聞いたりしますと、職場の労働環境が非常に厳しいというお話をよく聞きまして、そういったところから結構、「離職率」が高いのかなというところがあるのではないかなと思います。

日本看護師協会さんの2022年の看護師さんの都道府県別の離職率のデータを見させていただいたときに、岩手県の看護師さんの離職率が結構高いのかなというところがございます。いろいろと短時間での労働であったり、連携強化ももちろん大切なことかとは思いますが、そもそもの働いている皆さんの、労働環境や処遇待遇の部分改善されないことには、いろいろな対策を練ったとしても、根本を何とかしないと、なかなか人材の確保や、定着に繋がらないのではないかなと思いますので、その辺り御検討いただきたいなと思いました。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ありがとうございました。

いわて県民計画の新しいアクションプランの内容につきましては、今日の説明の中では直接説明はしないのですが、今の職場環境の関係について、担当部の方からも何かあれば。

**【田村保健福祉環境部長兼岩手県釜石保健所次長】**

医療従事者の確保に関しましては、我々も、医師、看護師、助産師等の職種を地域で増やそうとして、例えば、高校生、中学生に対して説明会を開催したり、パンフレット

を作成したりとかということは頑張っているのですが、御指摘のとおり、現場の労働環境につきましては、我々の方でもなかなか細かいところを把握できていないところもございますので、例えば、県立病院であれば、医療局、それから民間病院もあるのですけれども、様々情報収集しながら、よい方向に向かうような話し合いを続けていきたいと考えております。

**【植野副局長（宮古市駐在）】**

佐々木さん、御質問ありがとうございました。

看護師も含めて医師の働き方改革というか、超過勤務の時間がすごく多いのはそのとおりでございます。

来年には医師の労働時間も年間 960 時間という縛りがかかってくるので、看護師の皆さんも大変なところでございまして、そういったものの対策としては、患者の皆さんの病院へのかかり方というのを少し改善していただくということで、上手な医療のかかり方や、あるいは身近な病気については、かかりつけ医、地元の医院に最初行っていただく、大病院にすぐ行かないというふうな、広報、普及活動等をして、少しでも医療従事者の方の労働を和らげるような対策というものも県全体でやっておりますので、そういった取組を中心に広げていければなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【佐々木康行構成員】**

今後、いろいろ現場の声を聞いてより改善した環境をつくっていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ありがとうございました。

それではほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

最後にまたいろいろ御意見いろいろお伺いしたいと思っておりますので、先に進みたいと思います。

- イ 令和5年度沿岸広域振興局の施策推進方針について  
事務局から資料4-1～4-3に沿って説明。

**【河野通洋構成員】**

G Xということで、各市町村で太陽光発電や風力発電が推進されているようですが、あれは地域の住民に対しての電力供給なのか、若しくは東北電力さん、東京電力さん、FITとしての買い上げとして地域外に運ばれる電力を地域の中で発電しているのか。また、沿岸広域の地域内の企業若しくは地域内の公共団体にちゃんとお金

が回るような仕組みになっているのかどうか、この辺をざっくりでよいのでお答えいただければと思います。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

今の御質問でございますけれども、基本的な認識としては、東北電力への売電が中心ということで、FIT制度によればそうなってしまうという形になります。

ただ、地域地域によって、それぞれ、久慈地域ですと、地域の電力会社を作って、そこで地域内に流通させるという取組はそれぞれ進めてはいるのですが、実際の今の趨勢は、発電したものは東北電力に売電するという形になっております。

**【河野通洋構成員】**

この問題は、非常に大きな問題で、20年すると太陽光パネルも使えなくなって、産業廃棄物になるという、もちろん、誘致業者が廃棄するのだとは思いますが、ただ単に、地域の山や土地を大きな企業の利益のために場所貸しをして、多少なりとも固定資産税や地代が入るかもしれませんが、一切、地域住民が受益しないということ、ただ推進していくというのは、どうしてそうなるのかなど。

そうならないで、地域住民がきちんとその電力を活用して、今上がっているエネルギーコストを下げるとか、地域内の企業連携によって地域内に新しい産業や雇用が生まれる、みたいな形の推進をできないものなのか。

今、陸前高田でも大船渡でも、出ている話は、全部、外の大企業が誘致をして、電力会社にFITで売って、利益が全部東京とかそういうところに行って、電力そのものも送電線網が間に合っていないので相当なロスが出ているという認識をもっている、こんな無駄なことを、なぜ続けるのかという疑問でしかないです。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ありがとうございます。

いろいろそれぞれ計画は、地域ごとに進んでいまして、その中でもやり方によっては、協力金というふうな形で、ある程度地域にはフィードバックが来るような形で協定を結んで進めているところもあると聞いてはおりますけれども、全体の仕組みとしては、今、河野さんがおっしゃるような形にはなっているとは思いますが。

ただ、県としてもGXを進めていきたいということもありますので、そこは個々の事業者の計画の中で、それぞれの市町村と、県も入ることもあると思うのですが、なるべく地域のためになるような形で事業を検討していければなというふうに思っております。

ほかにございませんでしょうか。



**【佐々木淳子構成員】**

農業も大変だなというふう感じたわけですがけれども、漁業もなかなか大変でして、さっき達成率が40何%とダントツ低い数字を見せつけられて、いかにもそうだなというふうに納得したところです。

資料の10ページの下の方の部分で、「水産物の付加価値向上・販路拡大」というところがありますけれども、今日お持ちしたアカモクのふりかけは、昨年、一昨年から、県の助成金によりまして、開発させていただき、やっとコロナ禍を通り過ぎまして、今年の5月に発売にこぎつけたという商品です。たかがこんな小さい小瓶でと思われるかもしれませんが、ここに至るまでには結構難関がありまして、それでも県の方々の助成によりまして商品化することができました。

我々は、業者ではありません。中に含まれるアカモクにはカリウムという成分が普通の海藻の1,000倍以上も含まれていまして、カリウムというのは、体内の塩分を尿として体外に出すという働きをしてくれる成分でして、岩手県は脳血管の罹患率が全国でもワーストで、その中でも釜石市は1番2番を争うというふう聞いております。

ですから、我々女性部は、儲けは二の次にしまして、何とか釜石市内でアカモクが普及するように、そしてひいては、県内で何とか広がっていつてくれることを願って生産しております。

今後とも、商品の開発には我々素人ですので、今後ともよろしく御指導をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

**【筒井水産部長】**

アカモクの商品化につきましては、今お話ありましたとおり、数年前から私どもも一緒に取り組ませていただきまして、このような形で商品化に至ったことは大変うれしく思います。

また、各漁協の女性部の皆さんにはこういった地元の水産物を活用した商品開発ですとか、先日、大槌の方では、大槌漁協の女性部の方と地元の高校生が養殖サーモンを使った新たな浜料理開発ということで交流活動をされたところでした、いずれそういった様々な面で、漁協の女性部の皆さんの活動には大変こちらとしても御期待申し上げているところですので、今後とも、できることにつきましては、御協力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ほかにございませんか。

**【山本泰子構成員】**

うちの方は林業、海から7km以上家は離れています。

それで、「やませの丘」には10kmかかって産直に通いました、毎日、ガソリン代が大

変でした。

その頃は害獣や外的障害はあまりなかったので、何とか頑張ってクリアしたのですが、今はシカもいるし、本当に大変です。

一番大変なのは、しいたけの原木に虫が入って、皆さん、森林組合さんなどが、いろいろ頑張って駆除はしているようですけれども、全然間に合いません。

それで、うちの地区は、本当に山の中で、一面に虫が飛んで発生しているんです。

ますます高齢化してしいたけもやれなくなったのですけれど、一番の原因は、原木を使えないのですよ。

だから、やむを得ず、よその虫の入らないものを購入して、田老に5、6名今一生懸命やっているしいたけ生産者がいるのですけど、遠いところからわざわざ買って、山を自分たちの力で切り拓いて、運搬機で運んで、トラックで運んで、また運搬機で運んでみたい、3回ぐらいかけて、1,000本の木を3か月もかかるような感じですね、本当に遠いところから配って頑張っています。

地元だけではどうにもならないし、高齢化しているし、早く食い止めたいと思いますが、皆さんの地域ではどのようなのでしょうか。

皆さんで何とかお願いしたいなと今日は思って参りました。

後継者にも継げと言うのに力が入らないというか、どこから木を持ってくるのか。原発で今まであれして、災害で道路ができない、そうしているうちに虫が発生した。全然復帰する力がないのですよ。

あの虫を何とか食い止めていただきたい。いただきたいというのは虫がよすぎますけど、何とか考えていただけないかなと思ひまして、お願いいたします。

#### 【眞島農林部長】

ありがとうございます。

今、山本構成員がおっしゃられたのは、ナラ枯れのお話かと思ひます。

ナラ枯れは、沿岸の方で被害が広がってきているということで、国庫の補助事業や、県単事業を使いまして、伐倒燻蒸等をして広がりを抑えていこうということで、今、取り組んでいるところでございます。

原木を、遠いところから持ってこなければいけないという、非常にコストのかかることになるかと思ひますけれども、駆除については努力しておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。

#### 【松本副局長兼復興防災部副部長】

ほかにございませんか。

#### 【内金崎加代子構成員】

サーモンなのですが、地元の事業者、飲食店なども、サーモンメニューとして売り出したいとか、一緒に大槌サーモンを、事業者も一緒になってやりたいところなのです

けれど、あまり安く手に入らない、入りづらいところがありまして。うちは厨房が狭いので、できれば皮なしのフィレで欲しい。ですが、そうなると高くなってしまいます。でも広げるためには、そのような手ごろな感じを出していただけると、ありがたいなと思っています。

それと、潮風トレイルですけれど、昨日も外人の方のバックパッカーの方が一人で歩いていらして、うちに寄っていただいたのです。スタンプポイントなので。

もう少し道を整備してほしいところがあったり、草や木が覆いかぶさったままの道路などが、ちょうど歩いていくと、きれいな眺めのポイントがあったりするのですが、草木がすごかったり。なので、その辺も見直していただければなと思います。

#### 【筒井水産部長】

お話ありがとうございました。

養殖サーモンにつきましては、基本的には地元の魚市場の方を通じて、買請人さんが購入されたものをそれぞれのルートでもって流通させると思うのですが、いずれ、なるべく地元の加工事業者さん、飲食店さん、そういったところで使っていただきたいというふうに思っておりますので、改めてこちらの方からも活用の方よろしくお願ひしたいと思ひます。

ただ一方で、お値段につきましては、基本的には市場で浜値といいますか、決まってくるわけなのですが、最近、餌の原料が世界的に高騰しておりまして、実際、生産者としても、そういった餌代のほか、近年は船の燃油代とか、そういったコストの部分がかなり上がっているというふうに伺っておりますので、その辺は経費に見合った価格というのが、今後も生産を続けていくためには必要かと思っておりますので、なんとかその辺のところは、うまく折り合いがつくようにこちらとしても願っておりますけれども、御理解いただければと思ひます。

#### 【松本副局長兼復興防災部副部長】

潮風トレイルにつきまして、道路自体については、環境省が認定して指定しているのですが、それぞれもって、整備しているのは、それぞれ市町村とか県とか、バラバラなようなので、まとめてそういう御要望があったことは伝えてみたいと考えております。

よろしくお願ひします。

ほかにございますか。

#### 【竹野牧子構成員】

PRの関係について、なかなか地元の農林水産物を取り上げるニュースが耳に入っていないと感じておりますので、皆で協力して、沿岸圏域内外へ地元のことを宣伝するような場が増えていってほしいと思ひます。

数日前の新聞で、キッチンカーどこでも特産PRという記事がありました。これは、様々な特産品を日替わりで提供するというものでした。

このような小さなことでも農林水産物を販売していけたら、農林漁家の所得も増え、後継者も育ってくるのではないかと思います。

#### 【眞島農林部長】

ありがとうございます。

いろいろな商品のPR等が広くやられればよいというお話があったかと思えますけれども、例えば産直でのPR活動として、空港に産直マップを置くとか、それから、観光センター等にも置いて広く広域的に情報発信するなどしています。

また、産直でも、いろいろなデータが取れますが、例えば、各品目の売り上げ、来客数、気象関係のこととか、そういったものを分析して何とか生産・販売計画の改善につなげていきたいというようなことも考えておりました。宮古センターの地域経営推進費で今年度もやることにしておりましたので、そういったものを活用して何とか皆さんに商品を知ってもらい、たくさん買ってもらうということで、所得の向上につなげていければよいというふうに考えております。

#### 【松本副局長兼復興防災部副部長】

あと、ほかに、ございませんか。

#### 【佐藤智子構成員】

皆さん、事業をやられている方の中で、ボランティアという部分が少ないので、どう言ったらよいかと思いつながら、いろいろ考えながらいて。

私たちは先ほどグリーンの三つ折りの冊子と、オレンジ色のチラシを配らせていただいて、このようなことをしながら傾聴ということの啓発をしています。

グリーンのパフレットの中に傾聴ということが書いてあるのですが、そういうことを学びながら、いろいろ傾聴活動をしているところです。

被災者という部分だけではなくて、本当に住民全員ではないかなと思っております。もちろん被災者の心にも寄り添うのですが、本当に住民全員かなというふうに考えていて、行っているところです。

それで、フォローアップ研修、傾聴ボランティア養成講座等を開いていただいて、それで次の担い手を作っていただくよう、機会を作ってもらってはいるのですが、なかなか次の担い手が出てこないというところでもあります。

あとは、大船渡市の社会福祉協議会でも、そのように傾聴ボランティア養成講座というところで担い手の養成をしてくださるのですが、なかなか次の担い手になつてこないというところです。

それでいろいろとお話を聞いていると、ボランティアをやるということよりも、自分が職場に使う、自分が職場の中において傾聴を、職場で使うということや、人間関係、

対人関係で使うとか、この傾聴的な対応で対人関係をしているとか、そういうようなことを言われることが多くなりました。

私たちボランティア団体なのですけれども、「傾聴についてお話をしてください」と言われる機会が最近とても多くなりまして、このように「こもればの部屋」というように、利用者さんに傾聴的に対応する機会ももちろんあるのですけれども、「傾聴についてお話をしてください」と言われる機会が多くなって、皆さんずいぶん心を悩まれているのではないだろうかということを感じます。

そのことをお伝えしたいなと思うことと、それから、この子育てというところに、子育てサークルとか、いろいろ大船渡にもあるのですけれども、その中でママさんのお話を聞くという、子どもさんはもちろんのことだと思うのですが、サポートするのは、お母さん、お母さんの心、そこに寄り添うにはどうしたらよいのだろうというところで、傾聴という部分についてのお話をしてほしいという要請が結構あるのです。

なので、そういう部分のところ、もう少し私たちのように傾聴を少し学んだ者が何かお手伝いできたらよいなという、最近そんなことを思っているところです。

もちろん担い手もすごく必要で、高齢化しているものですから、担い手もいていただきたいなと思うのですけれども、随分、お話を伺うと、人間関係というところで傾聴というのが、とても皆さんにとっては大事なところなのだなと感じているところです。

そこを少しお話してみたかったことでした。

よろしく願いいたします。

#### 【高橋副局長（大船渡市駐在）】

とても大切な話をありがとうございます。

今、お話を聞くと、私達もそうなのですが、傾聴というのは言葉では聞くことができるのですけれども、実際にどんなことをするのかということ、今、佐藤さんの話を聞いて何となくわかりました。

したがって、私達も、今、話にあったようなことを、是非お話を聞かせていただければなと思っておりますし、あと、マッチングをもう少し考えなければならぬのかなというのを、今お話を聞いて分かりました。

私も、例えば県、そして市町村と連携しながら進めるということが必要かなと思っています。

それで、幅広に普及する、そういう御助言などいただければというふうに思っております。改めてお話を聞かせていただければと思います。

よろしく願いします。

#### 【田村保健福祉環境部長兼岩手県釜石保健所次長】

貴重な御意見ありがとうございます。

まず、子育てサークル、妊産婦の方々への対策ということで、釜石地区でも、釜石市が中心となって、県立釜石病院において産後ケア事業を行っており、そこで傾聴ボラ

ンティアの方々や助産師などとの連携を強めているところです。

それから職場での傾聴ということに関しまして、各職場での自殺対策は非常に大きなポイントだと我々も考えております。

働き盛り世代の40代50代の方々のお自殺者数というのも、この地区だけではなくて全県的に多いということもありますので、どんどん企業に入って行って、保健師が中心に対応していきたいと考えております。

また、大船渡保健所管内もそうですし、釜石保健所、それから宮古保健所管内も、傾聴ボランティア団体が複数ございます。我々も日頃から連携をとっておりますが、御指摘のとおり、次の世代といいますか、どこの分野も高齢化問題というのがございますので、そういったことにも意識しながら連携を強化していきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ほかに、ございませんか。

**【金澤辰則構成員】**

資料4-1の具体的な話をお聞きしたいのですが、資料4-1の4ページ、地域振興プラン4のところの現状課題の中段下段当たりなのではございますけれども、「次代を担う若者や女性などの地元定着やU・Iターンの促進、移住・定住者等が活躍しやすい環境づくりが必要」と、もちろんそのとおりなのではございますけれども、岩手県さんというか振興局さんで、どのような環境がそれに該当するのかというのを、私自身も移住定住の事業をやっている関係で、なるべく県が目指すものというのか、歩みをそろえていきたいなと思うのですが。概念的なもの、どういう環境を岩手県として、振興局さんとして目指しているのか、お聞かせ願えればと思います。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

資料でお配りしております、いわて県民計画 第2期アクションプランー地域振興プランーの24ページの「県が取り組む具体的な推進方策（工程表）」のページの下に④とございますけれども、「④ 若者・女性などの活躍推進と地域づくり人材の育成支援」というところで、ここが私どもの考えている環境ということになります。

書き方が概念的といいますか、大きな書き方をしているので、具体的にどうなんだと聞かれると厳しいと思うのですが、大きな考え方とすればこういうことで取り組んでいこうというところです。

**【金澤辰則構成員】**

分かりました。

先ほどの皆さん意見でもあったのですが、県が目指す方向がぼんやりしているとそれに対して我々がどうアプローチしていくのかなと常々考えていたりもして、か

とってあまり独自で走るとそれはそれで、例えば県の事業をとるなどのときにはじかれてしまったりがあるので、私自身ももう少しこの資料を読み込んでみます。

ありがとうございます。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

個別のお話につきましては、お気軽にお問い合わせいただければ、御相談しながら進めていきたいと思っております。

我々もかなり吟味してこれを作っているのですが、ここに書かれていないけど出てこない、裏の部分、検討の段階で積み重ねている事例、データなどがありますので、そこを含めてまた具体的に御相談させていただければと思います。

よろしく申し上げます。

ほかにごございませんでしょうか。

**【椎屋百代構成員】**

いろいろ見させていただいたり、皆さんの御意見をお伺いして、私の方から、何か御参考になるものがあればよいのかなというところです。

まず、山田町の商工会議所にいたときがあるのですが、そのときにまだアカモクというのが知られていない、震災前の、もう20年近く前の話になるのですが、

その際に、町内でもっとアカモクをたくさんの人に召し上がっていただいていたので、取り組んだのは、町内の飲食店を巻き込んでアカモク料理をやるということをやった経験があります。かなりの数の飲食店の御協力があって、12種類くらいのメニューがあって、それで町内を巡っていただくというようなことをやった経験があります。

何か通じるものがあるかなと思っているのは、このサーモンだと思っております。

サーモンはいろいろPRとか、私の方でもシールとか、うちはスーパーですので、大槌サーモンであったり山田のサーモンであったり、しっかりシールを貼ってお客様にPRはしているのですが、先ほどもありましたけど、その場で食べる場所がないというのが現状かなと思っています。

なので、この先何かあることがあれば、その飲食店さんとのとか、地元の方を巻き込んでそういったPRができれば、もっとよりよいサーモンが広がっていくのではないかなと思っております。

また、ほかのところと言うと、昨日ランドオープンしました新道の駅の「おいすた」ですが、うちのグループ会社の方が物販の方の部門を担当させていただいておまして、昨日もかなりのお客様が来場していただいているという話を聞いております。私の方はランドオープンではなくて、その前段階のプレオープンで対応させていただいていたのですが、県外、もちろん町外もなのですが、たくさんの方に来ていただいているのは確かです。

その場ですぐ、飲食店が隣接しているので、飲食店の方にも行列ができるくらいお客さんにも来ていただいているのですが、実際に食べていただくのは、結構地元のものではないものもどうしてもあるのが正直なところですので、そこでもどんどんサーモン使ったり、山田のカキだったりホタテだったり、地元のを召し上がっていただくという環境を整えていくことが一番大事なのかなと。そこでも魅力を知っていただいて、何回でも、山田だけじゃなくて、道の駅のはしごというのですかね、そういったものをどんどんしてもらって、「ここにはこういった食材がある」とか、そういったものを岩手県全体としてどんどん広めていければなと感じておりました。

それから、道の駅には必ず産直というのがあると思うのですが、以前、この会に出させていただいたときも、産直の方々というのが、インボイスというお話が状況的にあって、インボイスに登録するということが自体もストレスになっている方もいらっしゃるという話を聞いております。

次にインボイスに登録しましたとなったら、加工品を販売する方々、このアカモクの下にもありますけど、栄養成分表示を必ずしなければならなくなるわけですが、これまで産直でお団子を出していたり、お饅頭を出していたり、いろんなお惣菜やお漬物を出していたりしていた方たちが、栄養表示をまだまだ理解していない。御高齢というのものもあるのですが、そういった方々が理解できないがためにやめてしまうという話もよく聞きます。

できればそういった御支援というか。計算すればすぐ出てくるのは分かっているのですが、そこまでたどり着かないというのが正直なところ。産直の方々というのはですね。

ですので、こういった表示の仕方、計算の仕方、このシールを出すという、そういうものも事業者さんで出してくれるところもあれば、自分で用意しなければならないという方も実際にあるので、支援というか、どうしてもインボイスに登録しないと自分の生活が成り立たないという人もかなりいらっしゃると思うので、そういった根柢のところも支援していただけるとありがたいなと思います。

よろしく願いいたします。

#### 【筒井水産部長】

養殖サーモンにつきましてですけれども、養殖サーモンの飲食店さんでの提供につきましては、昨年、盛岡市が中心になるのですが、6月にフェアという形で開催をしていただいているところでした。

あと沿岸地域におきましては、例えば釜石市さんでサクラマスの地元飲食店での利活用促進ということで、サンプル提供とか、実際に事業者の方との意見交換など進められていると聞いております。

あと、県の取組としては、養殖サーモンではないのですが、真鱈については、ここ数年、地元での真鱈を使った料理のフェアという形で開催しております。今後サーモンにつきましてもそういった市町村さんとの連携も含めて様々な展開を図っていき



と思いますので、よろしく願いいたします。

**【田村保健福祉環境部長兼岩手県釜石保健所次長】**

補足でございますが、栄養表示の関係では、保健所に栄養士が所属してまして、飲食店等に対する栄養表示指導を行っておりますので、御相談いただければ、対応させていただきますのでよろしく願いいたします。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

ほかにごございませんか。

**【佐々木淳子構成員】**

婦人消防として、3月11日に県と釜石市の合同の追悼式の際に、追悼の言葉を述べさせていただく機会を頂戴しました。

ありがとうございました。

12年間、いろいろ思い悩んできたこと、感謝の言葉ですね、捜索にあたってくれた方、復興に際して支援いただいた方たち、それから、遺体の安置所での出来事などについてお礼の言葉を述べることができ、自分としては肩の荷が下りたといえますか、一区切りついたかなという思いがしています。

生き残った兄弟や親戚たちも納得してくれまして、今ホッとしているところです。

けれども、ホッとした人ばかりではなくて、今もなお悩みを抱える方も多いのではないかと察するわけですが、悩んでいる人は残念ながら決して口に出さないという傾向がありますので、「こもればの会」さんのような傾聴の場所が大切であることはよくわかっています。

今後とも御活躍をよろしく願いしたいと思います。

**【松本副局長兼復興防災部副部長】**

あとほかに、どうぞ。

**【河野通洋構成員】**

産業面で言うと、確実に衰退が進んできています。

大船渡の5月の有効求人倍率が0.73まで落ち込みました。ずっと落ちてきています。多分6月の分も7月の分もさらに落ちて、震災前の水準になってしまうのではないかなというふうな危機感があります。

我々にも責任があります。もちろん民間事業者で雇用の幅をつくっていかなければいけないのですけれども、そのためには、仕事を、お客様を増やさなければならないので、そのお客様を増やす施策を、外貨を岩手県の沿岸地域に持ってくる施策と一緒に考えていかなければいけない時期だと思います。

同じ岩手県なのですけれども、県央地域と沿岸地域とでは雲泥の差があります。産業

構造においても、交通の便に関しても。

外貨を獲得するということに関していうと、観光で外から人に来ていただくということは大事なことになります。

もちろん、岩手県として花巻空港や盛岡駅など県央の交通の要所を使いたいということは十分に理解できるのですが、沿岸地域で来ている車のナンバーをみると、仙台や宮城がすごく多いのです。

なので、以前のこの会議でも申し上げましたけれども、仙台駅や仙台空港、そういうところに、「三陸の沿岸はこんなに素敵な場所なんだよ」、「こんなおいしいものがあるんだよ」というような、「岩手県に来てください」というウェルカムの意思表示を、何とか県の予算で作っていただけないかなということが一つのお願いです。

もう一つが、海外に最近出展をして展示会を回りますけれども、他県のブースがあります。秋田県のブースとか、茨城県のブースとか。1回も岩手県のブースと出会ったことがないです。

外貨を獲得するには、外から来ていただくのと同時に外に三陸の産物を、海のものも山のものも一緒に売りに行かなければいけないと思うのです。

先ほど、陸前高田、シンガポールの話がありましたけれども、何度もシンガポールとの話があるのですが、物流と消費がまだ定まっていません。

そういったネットワークを、もちろん、我々民間が作っていくということは大前提ですけれども、こういったものにも県の予算で、県として、輸出に興味のある事業者をまとめて出展ブースを作るとか、若しくは、観光PRを海外に行って「岩手県来てけらせあ」というものをやるとか、そういう外向けの戦略、外から人を連れてくる、外からちゃんとお金の流通を生む、で豊かになっていかないと、ここに住む人はますますいなくなると思います。

内陸部にはたくさん仕事があります。でもそれはほとんど外の大企業です。これは撤退されたらそれで終わりです。

地場産業を育てるというふうなことにぜひ重きを置いていただいて、外に攻める戦略と一緒に考えていただきたい。

本当に切実な問題です。

よろしくお願いします。

#### 【菊池産業振興室長】

御意見ありがとうございます。

有効求人倍率につきましては、沿岸地域は最近1倍を切っている状況が見受けられます。毎月、公共職業安定所や市町村の関係者と情報交換を行っておりますので、引き続き、地域の雇用情勢を注視していきたいと思っております。雇用面では、高校生の全体数が減ってきておりますので、企業においては大学生採用等も視野に考えていかなければいけないと思っています。沿岸局としましては、今年度、地域経営推進費を活用し、大学生雇用に向けた企業のプレゼン能力を高める事業や、専門人材確保のためのセミナ

一を実施する事業に新たに取り組んでいるところです。

観光面の人の呼び込みにつきましては、今年度は、冬のJ R重点販売地域キャンペーンが展開される重要な時期であります。また、秋には三陸ジオパークの再認定審査も予定されています。沿岸局としましては、昨年度、道の駅を中心にSNSを活用した観光キャンペーンを実施し観光の誘客を図っているところですが、今年度は、道の駅のみならず観光・宿泊施設なども対象を広げ、J R重点販売地域キャンペーンの時期に併せて同様の取組を実施していこうと考えているところです。

外向けのPR発信につきましては、海外が昨年10月からインバウンド解禁になりました。本庁において台湾向けの商談会などの動きも予定されているところです。首都圏からの誘客は、東日本大震災津波伝承館をゲートウェイとして誘客や周遊を促進する取組を広域振興事業で行っています。東京の旅行エージェントに訪問し、三陸の魅力や優遇策なども説明しながら、三陸鉄道(株)やバス会社と連携して取り組んでいます。県外での観光PRは、大阪のツーリズムEXPOに出展予定で、J R重点販売地域キャンペーンの前に、三陸DMOセンターと県北局と連携し、三陸沿岸を広域的にPRする予定です。沿岸局としましても、このような取組を行っていきますので、今後とも、よろしくお願いいたします。

#### ウ その他

##### 【松本副局長兼復興防災部副部長】

それでは、最後に、(3) その他ということで、今までの分も含めまして何かお話ししたいことがある方がいらっしゃれば承りますが、よろしいですか。

それでは、議事はこれで終了いたします。

本日、皆様からいただきました御意見は、令和4年度の施策評価の作成、それから令和5年度、今年度の取組の参考とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

#### (6) その他

##### 【松本副局長兼復興防災部副部長】

次に、次第第6のその他に移ります。

事務局で用意した事項は特にございませんが、この際ですので、皆様から議事以外で何かございますでしょうか。

よろしいですか。

なければ、本日の懇談会の結びとして、局長の工藤から御礼の御挨拶を申し上げます。

##### 【工藤沿岸広域振興局長】

本日は、長時間にわたって、熱心な様々な御意見をいただき、本当にありがとうございます。

皆様から頂いた御意見、特に、このiーサポ、最初にお話いただきました、人口減少対策・社会減対策としてiーサポ、特に8月から10月まで、普段は登録料がかかりますけれども、無料キャンペーンがありますし、しっかり担当に伝えて、サービスもよくしながら進めていきたいと思っております。アカモクのふりかけについては、お聞きしたところ、釜石市内の魚河岸テラスの1階で販売されているということで、今後さらに消費拡大されていくとよいと思います。

いずれ、人口減少対策のためにも、そういう産業を盛り上げていく必要があるということで、所得を増やす方策や、あるいは外貨を沿岸に持ってくる戦略、まさに一緒に考えるというのは大事だと思いますので、ぜひ、進めていきたいと思っております。それから、社会減対策にも通じる、働く皆さんの労働環境の改善というのも大事です。前後しますけれども、養殖サーモンが地域内でちゃんと消費・流通するような対策や、ナラ枯れの関係も燻蒸・駆除の努力はしているところがございますけれども、いずれいろいろ御意見、課題をお伺いしたところでもありますので、傾聴も含めて心のケアも大事なところでもあります。

そういったところで、振興局としましては、こういった地域の皆様からお話をお聞きしたり、市町村ともお話をし連携したりということで、地域に密着した県の仕事をするということが役割でありまして、振興局では結構今日お話を聞きした細かい仕事しているのだなというのはあると思っておりますけれども、全県的な対策については、県で予算を大きくとってやったり、そして地域に応じた細かい対策については振興局で対策したり。ただ、御意見をお聞きするものについては、振興局だけでやるものではなくて、お話を聞きして、しっかりと県庁とも連携して、県としてしっかり対策を講じていくというふうにしたいと思っておりますので、今日の御意見についてもしっかり受け止めて、県としての対応を進めていきたいと思っております。

本当に本日はありがとうございました。

引き続き、県、そして振興局の施策にお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

## (7) 閉会